

千葉大学医学部附属病院で糖尿病治療にあたって 持続皮下ブドウ糖濃度測定を用いて血糖測定をされた 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年11月19日

糖尿病・代謝・内分泌内科

糖尿病・代謝・内分泌内科では、持続皮下ブドウ糖濃度測定を用いた新規の有用な臨床パラメーターの創出に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2020年10月1日～2024年12月31日の間に、糖尿病と診断されている方の中で、持続皮下ブドウ糖濃度測定 (Freestyle リブレ、Freestyle リブレ 2、Dexcom G6、Dexcom G7) により血糖測定をされた方

1. 研究課題名

「持続皮下ブドウ糖濃度測定を用いた新規の有用な臨床パラメーターの創出」

2. 研究期間

2025年承認日～2030年3月31日

この研究は、観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

糖尿病治療においてインスリン治療を行う場合、より良い管理を目指すためには自宅での血糖測定が重要とされています。現在、指先で血液を採取して測定する機器に加えて、皮下の組織液のグルコース濃度を用いて持続的に血糖値の測定を行う機器(以下CGM; Freestyle リブレ、Freestyle リブレ 2、Dexcom G6、Dexcom G7 など)が主流となっています。

CGMのデータからHbA1cが推定でどのくらいになるかを示す、グルコース管理指標(GMI (%))や、血糖値が目標となる70～180mg/dLの範囲内にある時間の割合(TIR (%))な

どの指標は、血糖管理状況や合併症との関連が報告され、その有用性が示されています。

このように、CGMで持続的に測定されたグルコース値と、臨床上の情報（合併症や体格、使用している内服薬やインスリンの内容など）との関連を検討し、より良い血糖管理や予後予測などに関する有益な指標を新たに創出したいと考えております。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

持続皮下ブドウ糖濃度測定により記録されたグルコース値、

診療録に記載されている年齢・性別・身長・体重などの基本的な情報、糖尿病の病歴、併存疾患、既往歴、血液・尿検査値、治療薬やインスリンの内容・用量

5. 研究組織（試料・情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：予防医学センター 教授 小野 啓

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院 糖尿病・代謝・内分泌内科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。
情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

予防医学センター 教授 小野 啓

043(222)7171 内線 5253